

【理科・小3・「音のふしぎ」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 音の性質について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (思考力・判断力・表現力等) 音を出したときの震え方の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、音の性質についての問題を見だし、表現する。
- (学びに向かう力、人間性等) 音の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。

ICT活用のポイント

- ・授業の導入で、本時の学習の流れをスクリーンに提示し、授業の流れを可視化することで、その後の活動にスムーズに取り組めるようにする。
- ・自然事象に触れ、自分が見つけた気付きや疑問を、共同編集ソフトに入力することで、友達と意見を共有したり、新たな気付きが生まれたりできるようにする。
- ・家庭にICT端末を持ち帰り、身近な生活の中で音に関する気付きや疑問を見付ける活動を行うことで、音に関する興味・関心を高める。

事例の概要（本時の学習）

・音について知っていることを発表し、本時のめあてをつかむ。

- ・楽器から音を出し、音に関する気付きや疑問をもつ。
- ・自分が見つけた音の伝わるひみつを共同編集ソフトに入力し、友達と考えを交流する。
- ・学級全体で気付きや疑問を共有し、単元の課題をつかむ。

・本時の振り返りをする。

【めあて】音の伝わるひみつを探し、話し合い、今後の学習の見通しを立てよう

事例におけるICT活用の場面①

- 本時の学習の流れをスクリーンに提示することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

事例におけるICT活用の場面②

- 様々な楽器に触れ、気付いたことや疑問に思ったことを、共同編集ソフトのホワイトボード機能を用いて入力することで、友達と意見を共有したり、新たな気付きが生まれるようにする。共同編集ソフトの画面は複数の児童の意見が同時に見られるようにする。
- 大型掲示装置に一覧表示することで、クラス全体で学びの共有を行う。

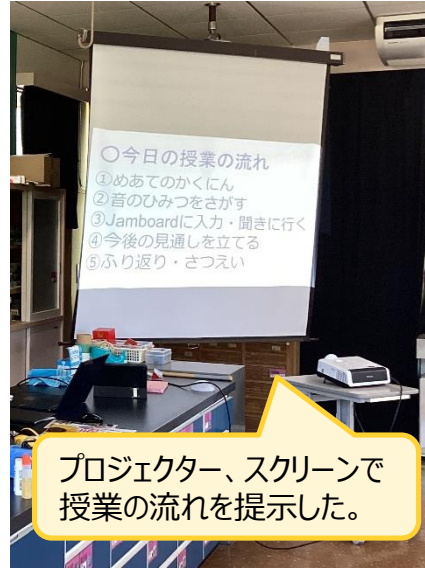
事例におけるICT活用の場面③（家庭）

- ICT端末を持ち帰り、身近な生活の中で音のひみつを探す活動を行うことで、児童の興味・関心を高めるとともに、日常生活とのつながりを意識できるようにする。

【理科・小3・「音のふしぎ」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

- ・「今日の授業の流れ」や「調べる楽器の順番」をスクリーンに掲示して全体で確認をした。
- ・その後、児童が調べる活動の場面を設定することで、直接体験をする時間を十分にとることができた。触れる楽器の順番も掲示していたため、児童の活動が停滞することなく、自由に試行する姿が多く見られた。



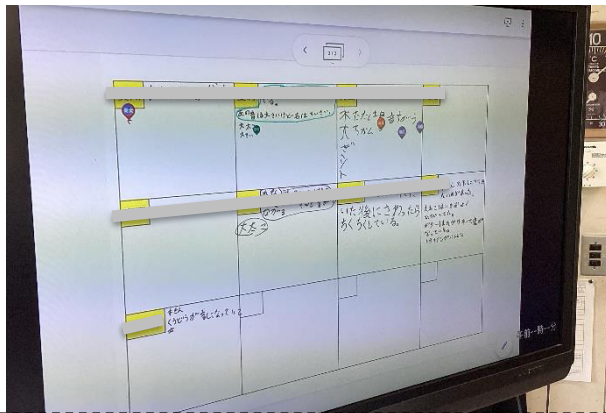
友達と気付きを共有しながら、音のひみつについて試行し調べる姿が見られた。



4つの活動の場を設定。次に触れる楽器をスクリーンに提示しておくことで、スムーズに活動に取り組めた。

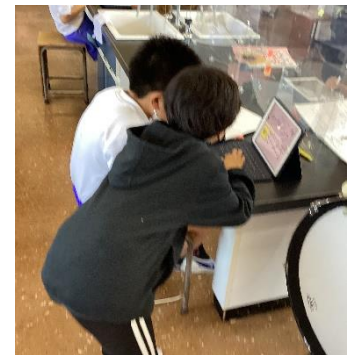
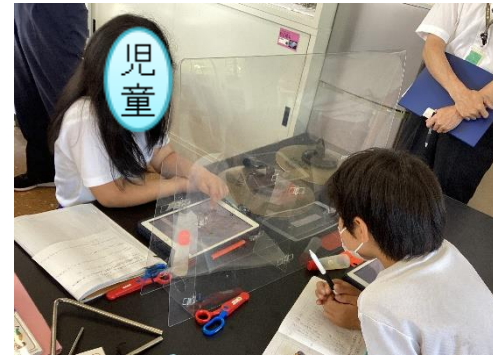


【事例におけるICT活用の場面②】



ピンチインして自分の考えを記入。

ピンチアウトして友達の考えを確認。



- ・共同編集ソフトを用いて、各自が自分の気付きを手書き入力した。画面をピンチイン／アウトして、友達の考えを確認している姿が見られた。

リアルタイムの同時編集により、児童は自分の考えと他者の考えを容易に比べることができ、直接対話を始める姿が見られた。

【事例におけるICT活用の場面③】（家庭）

- ・家で探した音のひみつをICT端末で記録する活動を楽しみにしている姿が見られた。

【活用したソフトや機能】

- ・プレゼンテーションソフト
- ・学習支援ソフト
- ・写真・動画撮影
- ・ホワイトボード機能